

平成29年度第4回 精神障害者地域移行推進専門部会議事録

日時 平成30年3月27日(火)18時～20時

本庁舎5階大会議室

出席者：渡邊部会長、三好副部会長、浅井委員、岡田委員、桑田委員、國分委員、
多勢委員、千葉委員、西村委員、深見委員

(事務局)

ただいまから、平成29年度第4回精神障害者地域移行推進部会を開催いたします。
どうぞ、よろしくお願いいたします。

(資料確認)

(障害者福祉推進課長あいさつ)

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。
また、日頃から本県の精神保健福祉の推進に格別のご理解ご支援を賜り、厚く
お礼申し上げます。

第六次千葉県障害者計画については、先週開催されました千葉県障害者施策推進協議
会にて了承をいただいたところです。本来であれば、本部会の前に部会を開催し、委員
の皆様到最后案の了承をいただくところですが、日程の都合上前後してしまい、この場
を借りてお詫び申し上げます。本日は、第六次千葉県障害者計画の最終案を御報告させ
ていただくとともに、平成30年度重点事業、そして来年度から本格的に運用していく
「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」についてご説明させていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ここからは、渡邊部会長に進行をお願いします。どうぞよろしくお願いいたします。

(渡邊部会長)

よろしくお願いいたします。

それでは、議題(1)「第六次千葉県障害者計画について」事務局から説明をお願いし
たいと思います。

議題 (1) 第六次千葉県障害者計画について

(事務局説明)

(渡邊部会長)

それでは、続きまして、議題（２）「平成３０年度重点事業について」事務局から説明をお願いいたします。

議題（２）「平成３０年度重点事業について」

(事務局説明)

(渡邊部会長)

それでは、事務局から説明したことについて何か御意見御質問等ございましたらお願いいたします。

(國分委員)

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築について

以前からやっている精神障害者地域移行支援事業に代わるという説明があったが、各圏域での現在の進め方に任せるといことか。各圏域での努力によるが、この予算で、本当にケアシステムの推進ができるのか。

(事務局)

各圏域では、会議を開き、地域のニーズや課題の整理をしてもらう。圏域の中で、グループホームの整備が必要など、提案があれば追加で事業を行うか検討していく。ケアシステムの構築事業の予算では、協議をする場の提供についてのみである。

(國分委員)

既に地域移行支援事業を行っており、圏域ごとに課題の整理等を行っているかと思うが。

(事務局)

確かに地域移行支援は、退院促進支援事業から地域移行支援事業に名称変更後も、約１０年行っている。ただ、圏域の協議会の中には最近設置されたものもある。今後、どんな取組みを行っていくか圏域ごとに検討を続けてほしい。

今までは、圏域コーディネーターによる委託事業であったが、今後は保健所や区市町村などの行政と併せて進めていく。各圏域にはこの件について今年度説明を行っている。H30は、今後の進め方についての方向性を検討し、H31以降具体的にどうしていくか検討していく流れを想定している。

(桑田委員)

グループホーム関係の予算は、精神障害のみ対象ではなく、障害者全体に対する予算ということか。結果的にこの予算で知的障害や身体障害のグループホームが増えたという事がありえるのか。

(事務局)

そのとおり。

(深見委員)

本日、認知症関係の会議に出席した際に、認知症サポーター養成講座事業の中に、子ども認知症サポーターについても含まれていた。学校に講師を派遣したり、パンフレットを配布したりすることで、認知症にについて理解を促していくというもの。今後、この事業にならって、精神関係についても「子どもたちへの理解の促進」について事業を行っていったらどうか。

(事務局)

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの中に、教育も含まれている。今後、教育庁と連携し、取組みの検討を行っていきたい。

(渡邊部会長)

それでは、議題(3)精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築について事務局より説明をお願いします。

議題(3) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築について

(事務局説明)

(渡邊部会長)

それでは、事務局から説明したことについて何か御意見御質問等ございましたらお願いします。

(國分委員)

保健所の精神保健福祉連絡協議会は、従来から行っていたのか。

(事務局)

従来から、全ての圏域ではないが、協議会を行っていた。

(國分委員)

現在何圏域行っているのか。

(事務局)

現在10圏域で行っている。

(國分委員)

従来の圏域コーディネーターによる協議会は年6回ほど開催していた。保健所による協議会は年何回ほど開催するのか。

(事務局)

代表者会議は、年2回ほどの開催を考えている。H30は例年どおり年1回の開催を予定している。

資料3 P11 イメージ図参照

地域移行支援協議会でニーズや課題の整理をして、その内容を代表者会議にあげてもらう。代表者会議では、あがってきた内容をもとに事業の方向性を決めていく。

県としても方針をたて、圏域ごとの評価結果を確認し、内容を集約して、各圏域に情報提供などを行っていく。

(桑田委員)

現在の協議会では、退院に向けた支援（地域移行支援）を中心に議論してきたが、今後は地域生活全体の支援となる。「地域移行」の考えが薄れるのではないか。

(事務局)

今後、協議会の議題の幅は広がっていく。そのため、議題によって参加者を変えても構わない。

(桑田委員)

今後、今までの協議会参加者の認識を変えていく必要がある。会議の進行の仕方や内容などをコーディネーターが十分に理解していく必要がある。

(事務局)

圏域によって会議や協議会の設置等の状況は違う。ケアシステムの構築について議論できる場であれば既存の協議会でも構わない。

コーディネーター会議や保健所にもケアシステムの構築については既に説明はしている。来年度以降も引き続き関係者に理解を促していく。

(岡田委員)

現場でも、どう進めていくか混乱している。近年の協議会はやや形骸化していたように感じている。今後圏域ごとに意見を出し合いながら、どう取り組んでいくか考えていきたい。

(西村委員)

精神保健福祉連絡協議会の出席者はどう選出しているのか。

(事務局)

保健所ごとに設置要綱を定めて、協議会に必要な出席者の選出や事業報告等を行っている。

(西村委員)

都市部（市川など）では障害福祉事業所等が多く、こういった協議会にどこが出席するのか選出に苦慮している。

(事務局)

来年度、協議会の構成員についても検討していく。地域によって構成員も違ってくると思っている。

(國分委員)

地域包括ケアシステムの中に、家族支援とあるが、具体例はあるか。

(事務局)

地域包括ケアシステムを構築する上で、家族の理解や支援が必要となってくる。今後、協議会で話題にあげて、どういう支援が必要か検討していくべきかと考える。

(渡邊部会長)

ありがとうございました。

内容を少し整理すると、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムは、①圏域ごとに協議していく ②内容等についてはH30一年間かけて固めていく ③その際に、障害者福祉推進課等の行政も積極的に介入していく ということでしょうか。

(事務局)

そのとおり。

(渡邊部会長)

それでは、議題（４）その他として何かありましたらお願いします。

(事務局)

事務局より報告事項がございます。

千葉県精神障害者地域移行・地域定着協力病院認定事業の今年度の進捗状況についてですが、平成２９年１２月浅井病院・海上療養所の２病院増え、合計１３病院となりました。今後も協力病院を増やしていけるよう事業に取り組んでまいります。

以上で報告を終わります。

(渡邊部会長)

それでは、今年度最後の部会であるため、吉田障害者福祉推進課長よりご挨拶をお願いしたいと思います。

(吉田課長)

本日も熱心な御意見をいただき、ありがとうございました。今後の施策に生かしてまいります。また、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについては、仕組みを作るだけでなく、機能していくよう、各圏域に呼び掛けてまいります。

今年度計４回部会を開催してまいりましたが、おかげさまで第六次千葉県障害者計画が完成いたしました。この場を借りて御礼申し上げます。今後、計画に取り組んでいく上で、委員の皆様の御協力は欠かせないものであります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

(渡邊部会長)

それでは、こちらで議事を終了し、進行を事務局にお返しいたします。

(事務局)

それでは、以上をもちまして本日の「第４回精神障害者地域移行推進専門部会」を終了いたします。

来年度も引き続きよろしくお願いいたします。

以上でございます。本日はお疲れ様でした。